

地域社会との協調、社会貢献活動の推進

日本ガイシグループは、各国・地域の社会的課題に関心を持ち、地域に信頼される企業市民であることを目指して、各地のニーズに応じた社会貢献活動に取り組んでいます。

基本的な考え方

日本ガイシグループは、以下のような考え方のもとで、社会貢献活動を推進しています。

活動の軸

「人・教育」、「環境」、「地域との関わり」を主要な活動軸とする。

会社活動と従業員の関わり

- 従業員に活動を体験/実感できる機会を提供する。
- 従業員の満足感、会社への信頼感を醸成するために、会社が個人活動を積極的に認める。

情報発信

活動内容の理解を促進し、従業員に社会貢献マインドが浸透するよう活動情報を提供する。

社会貢献活動の推進体制

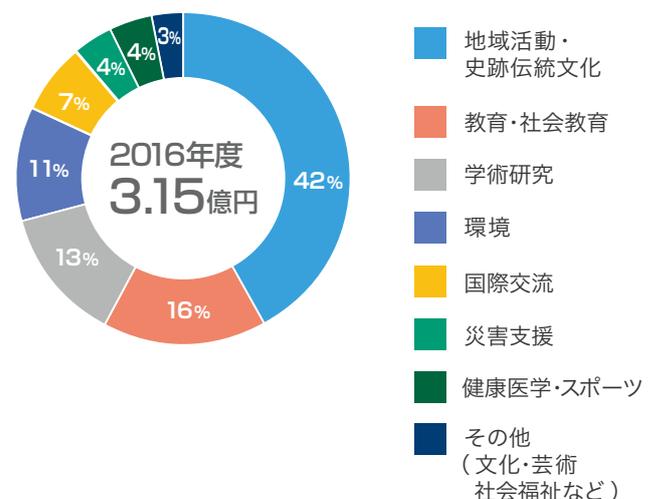
日本ガイシグループの社会貢献活動は、CSR委員会のもと総務部長が分科会長を務める社会貢献推進専門分科会を中心に推進しています。

各地で実施した社会貢献活動に関する情報は、国内外のグループ会社の社会貢献活動通信員から収集しています。2016年度は、88件の活動報告がありました。

社会貢献活動の推進状況

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
社会貢献支出額	3.48億円	3.31億円	3.46億円	3.15億円
社会貢献プログラム数	9件	8件	9件	10件
NPO/NGOとの協働件数	3件	5件	4件	4件

活動の内訳



留学生への奨学、生活支援

日本ガイシは、国際社会の発展に貢献する人材育成への寄与を目的に、一般財団法人日本ガイシ留学生基金を設け、日本を訪れる海外からの留学生に対する宿舍提供や奨学金支給を柱とする支援活動を続けています。

この活動は、1930年代から日本ガイシが世界へ進出した際、海外へ赴任した従業員やその家族が現地であたたかい支援を受けたことへの感謝の気持ちから始まったもので、日本で学ぶ留学生たちにも「日本へ来て良かった、日本を好きになった」と思ってもらえるよう努めています。2016年度は8カ国40人に宿舍を提供、11カ国20人に奨学金(給付型)を支給しました。

参考URL

> 一般財団法人日本ガイシ留学生基金
<http://www.ngk.co.jp/csr/philanthropy/>



留学生宿舎「日本ガイシインターナショナルハウス」

支援留学生と地域社会、従業員との交流

支援留学生と地域の方々や従業員との草の根国際交流の機会となる各種の行事にも取り組んでいます。留学生が講師を務める語学講座を2000年から、留学生が母国を紹介する異文化交流会を2006年から毎年開催しています。

2016年度は、中国語と韓国語の語学講座を行いました。また、異文化交流会は12カ国の留学生が講師となり、12回実施、留学生と地域住民の方々との良い交流の機会となりました。2016年度までの参加者は、延べ920人となります。

< 留学生と地域住民の参加者数 >

	中国語講座	韓国語講座	異文化交流会
留学生	4名	4名	20名
地域住民	24名	24名	23名



マリ文化交流会(2016年9月)



インド文化交流会(2016年10月)

支援終了後のコミュニケーション

支援終了後も支援留学生との関係を維持するため、OB・OGを含む留学生に、近況報告を兼ねた年賀状を送っています。

また、支援が終了した留学生には、当社の連絡先を記載した「NGKインターナショナルフレンドシップクラブ」のメンバーズカードを配布しています。

2016年度は財団や日本ガイシのトピックスを掲載した年賀状を支援が終了した留学生を含む約300人に送付しました。

地域社会、NPOなどと協調した社会貢献活動

日本ガイシは、地域に信頼される企業市民であることを目指し、地域社会やNPOなどと協調して、地域のニーズに応じた社会貢献活動に取り組んでいます。また、国内外の日本ガイシグループ各社でも、従業員ボランティアを中心に、それぞれの地域に根付いた社会貢献活動を行っています。

参考URL

＞ その他の社会貢献活動についてはホームページをご覧ください。
<http://www.ngk.co.jp/csr/social/stakeholder/activity/>

日本ガイシの社会貢献活動

熊本地震被災地への支援

熊本地震の被災地を支援するために、ライフラインとしての電力設備の復旧に向け、ガイシなど関連機材の生産と供給に日本ガイシグループ丸となって取り組み、被災者の皆さまの救援や被災地の復興に役立てていただくために、義援金1千万円を拠出しました。加えて従業員から寄付を募り、寄せられた金額と同額を会社が上乗せして拠出する「マッチングギフト」も行いました。

また、本社などで備蓄していた食料品やミネラルウォーターを、セカンドハーベスト・ジャパンを通じて被災地へ届けました。



NPO法人に備蓄品を手渡した

陸前高田市の中学生の職場体験に協力

日本ガイシは2017年1月、名古屋市教育委員会が行う岩手県陸前高田市の中学生の職場体験に協力し、中学生2人に日本ガイシ本社AC工場でハニセラムの窯詰めや窯出しを体験してもらいました。

名古屋市と陸前高田市の教育委員会は2012年に「絆協定」を締結し、中学生の相互訪問を毎年実施しています。



はんだエコ探検隊の工場見学

知多事業所は半田市からの要請に応え、市内の親子計20人の工場見学を受け入れました。参加者は環境に配慮している事業所や施設を見学する学習事業「はんだエコ探検隊」の一環として当社を訪れ、ガイシ工場を見学。ガイシが「ろくろ」の上で形を変えていく様子は、子どもだけでなく大人の関心も集めていました。



国内グループ会社の社会貢献活動

明知ガイシ「第44回光秀まつり」にボランティアとして協力

2016年5月に岐阜県恵那市の日本大正村で行われた「第44回光秀まつり」に、明知ガイシの社員5人がボランティアとして協力しました。武者行列に参加した社員3人は、巫女姿で文化財保存のための寄付を募ったり、お守りを販売しながら沿道を練り歩きました。そのほかの2人は明智町交通安全協会の会員として、山車が進む沿道の交通整理を行いました。



双信電機、切手収集で女性支援のボランティア活動に協力

2016年8月、双信電機東京本社の営業・管理部門の女性社員13人が、情報紙「シティリビング」(サンケイリビング新聞社発行)が推進しているボランティア活動「シティOL-AID」に協力しました。女性社員は社内に切手の回収ボックスを設置して声を掛け合い、使用済み切手を収集。合計で779gの使用済み切手を新聞社に送りました。切手は新聞社経由で国内外の収集家に買い取ってもらい、開発途上国の妊産婦や女性を支援するための活動資金に役立てられます。



NGKオホーツク「オホーツク網走マラソン」にボランティアとして参加

2016年9月、地元のイベントを盛り上げようと、社員らの参加を募り「オホーツク網走マラソン2016」にグループボランティアとして参加しました。秋晴れの下、約2,000人のランナーがオホーツク海と世界遺産の知床連山を望み、魅力的な景観を満喫して疾走する中、NGKオホーツクのボランティア6人はコース誘導などに協力しました。



海外グループ会社の社会貢献活動

サイアムNGKテクノセラ、タイ南部・洪水被災者に寄付

2017年1月、タイでは南部を中心に大雨による大規模な洪水が発生しました。これを受け、サイアムNGKテクノセラの社員有志は、被災者への支援金や、日用品や医薬品といった必要物資を寄付しました。支援金や物資は、タイの行政政府を通じて被災者へ届けられます。



中国・蘇州で桜の名所づくりに協力

NGK蘇州環保陶瓷は、中国・蘇州市の太湖湿地公园で桜の植樹活動を行っています。この植樹活動は、2016年で5年目を迎えます。

2016年4月13日の植樹活動では48人の社員ボランティアが参加し、240本の苗木を植えました。今後も、地域社会への貢献につながる取り組みに協力していきます。



バージニアビーチで健康を願いウォーキング

NGKロックポリマーインシュレーターズの社員有志が、バージニアビーチで行われたウォーキングイベントに「チームNGK」として参加しました。このイベントは、アメリカがん協会が乳がん検診の早期受診を促す啓発運動の一環として行っているものです。イベントに先立ち NGKロックポリマーインシュレーターズ社内で行われた募金活動では、総額1,000ドルを超える寄付金が集まりました。



従業員のボランティア活動に対する支援

日本ガイシグループでは、従業員が社外ボランティアに参加するきっかけをつくるため、活動への積極的な支援や情報提供を行っています。

子どもに科学の楽しさを伝えるサイエンスボランティア

日本ガイシは、ものづくりに携わる企業として、次世代を担う子どもたちに科学の楽しさを伝えるための情報発信をしています。1997年から科学雑誌に「NGKサイエンスサイト 家庭でできる科学実験シリーズ」の連載を開始しました。

日本ガイシのホームページに専用サイトを設け、専門家の監修による科学実験を、詳細な手順とともに毎月1回掲載しています。実験は、ペットボトルや乾電池、野菜や調味料など、身近にあるものを使用することで、子どもたちの興味を喚起しています。

また、1998年から毎年、「青少年のための科学の祭典・名古屋大会」(主催:日本科学技術振興財団ほか)などの地域の科学イベントに実験ブースを出展し、従業員ボランティアがNGKサイエンスサイトの実験を紹介しています。これまでに約40回の実演を行い、延べ約2万人の子供やその親らが体験しています。

参考URL

> NGKサイエンスサイト
<http://site.ngk.co.jp/>

TOPIC

NGKサイエンスサイトが広告賞を受賞

家庭でできる工作や実験を楽しく図解している点が評価され「NGKサイエンスサイト」が第38回「2017日本BtoB広告賞」(主催:日本BtoB広告協会)雑誌広告の部で金賞を受賞しました。今後も気軽にできる工作の要素を取り入れた科学実験を分かりやすく紹介していきます。



事業所周辺の清掃活動

日本ガイシグループでは、地域社会の一員として、事業所周辺の清掃活動を積極的に行っています。2016年度は日本ガイシの各事業所やグループ各社で実施しました。日本ガイシ労働組合でも、NGKゆうサービス、NGKビルサービスの協力の下、日本ガイシ本社周辺と近隣公園の清掃を25年前から継続して実施しています。2016年は神宮東公園で実施し、3回で延べ556人が参加しました。2017年3月には名古屋市都市美化連盟から都市美化功勞表彰を受け、名古屋市都市美化連盟会長の河村たかし名古屋市長から感謝状が贈呈されました。



福島ひまわり里親プロジェクトへの参加

日本ガイシ労働組合は、購入したひまわりの種子を育て種子を収穫する「里親」となることで、福島との絆づくりや震災の風化対策、更には知的作業所を始めとした現地の方々の雇用対策に貢献する「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加しています。2016年は日本ガイシ名古屋事業所に昨年よりも大規模な「里親ブース」を設置し、ひまわりを育てました。ひまわりは立派に育ち、昨年は7.4kgだった種の収穫が2016年は10.6kgとなりました。また、2016年6月には「福島ひまわり里親プロジェクト」を立ち上げた NPO法人「チームふくしま」の理事を招いて、防災講演会を開催しました。83人が参加し、被災地の「生の声」を聞くことで、「これから」の活動を考えるきっかけとなりました。



地域社会との交流

日本ガイシグループは、工場見学や地域イベントなどの機会を通じて地域の皆さまとの交流を活性化するとともに、直接対話の機会を設けて、いただいたご感想やご意見を当社グループの事業活動やCSR活動に活かしていくよう努めています。

工場見学の開催

子どもや地域住民との交流

日本ガイシでは、地域との交流を図り、当社やものづくりへの関心と理解を深めていただくために、2016年度は3事業所で7件、計219人の小学生や地域の皆さまに工場を見学していただきました。

2016年度に開催した工場見学会(日本ガイシ)

	件数	参加人数	詳細
知多事業所	2件	79人	地域住民工場見学会、半田市環境課の親子見学会（エコ探検ツアー）を開催
小牧事業所	3件	39人	春日井西高等学校、瀬戸窯業高等学校の生徒らが来訪。近隣区長・役員見学会を開催
石川工場	2件	101人	石川県立工業高等学校の生徒、日本ガイシ安全協力会らが来訪

知多事業所で地域住民の工場見学会を開催

日本ガイシは、2016年11月、重要なステークホルダーである地域住民の方々とコミュニケーションを図るために、知多事業所で工場見学会を行いました。知多事業所長(石川修平取締役常務執行役員)らが日本ガイシの事業内容などについて説明した後、参加者は金属工場とガイシ工場を見学しました。見学後には、参加者から製造現場におけるロス削減活動の取り組み状況やガイシの価格についてなどの質問が寄せられました。

地域住民の方々に、日本ガイシのものづくりや事業活動について理解を深めてもらうよい機会となりました。



地域住民ら61人が訪れた



ガイシ工場を見学する参加者

小牧事業所「NGK夏まつり」50周年と初めての「日本ガイシ 石川工場夏祭り」

日本ガイシは7月に、小牧事業所で恒例の「NGK夏まつり」を開催しました。50年目となる今回は、近隣の方々や従業員の家族約2,200人が来場。大島卓社長も浴衣姿で参加し、来場者に対して日頃の支援への感謝を述べました。8月には、石川工場で「日本ガイシ石川工場夏祭り2016」を開催しました。近隣住民や社員の家族ら約800人が来場したこの夏祭りは、2011年の石川工場操業開始から5周年を迎えたことを記念し、近隣住民への感謝を込めて初めて開催したものです。



日本ガイシスポーツプラザ命名権10年、エナジーサポート命名権取得

日本ガイシは2007年の取得以来継続している、愛知県名古屋市にある日本ガイシスポーツプラザ(日本ガイシホール、日本ガイシアリーナ、日本ガイシフォーラムを含む)のネーミングライツ契約を2017年に更新しました。また、エナジーサポートは2016年4月、犬山市民体育館(愛知県犬山市)のネーミングライツ(命名権)を取得し、地域住民の豊かな心とエネルギーを育む場となることを願って、「エナジーサポートアリーナ」と命名。日本ガイシグループは、公共施設への経済支援を通して地域社会に貢献します。



環境教育への協力

「環境教育とコミュニケーション」のページをご覧ください。

参考ページ

> 環境教育とコミュニケーション

P113